

「鋼橋へのアプローチ」改訂版の概要

— さらにわかりやすく、ビジュアルに全面改訂 —

平成10年1月に当協会が発行しました『鋼橋へのアプローチ』は、橋梁に携われる方々に、鋼橋を身近に感じていただけるような、ダイジェスト版として編集いたしました。発行以来はや8年が過ぎました。今回、全面的な見直しを行い、平成18年9月に装いも新たに**改訂版**を発行いたしました。



(表紙写真)

(頁数: 本文全 43 頁)

2,000 円(消費税込)

1. 改訂の背景、経緯

昨今の日本をとりまく社会情勢の変化に伴い橋をめぐる環境、橋に対する要求、そして橋に対する物の見方などが大きく変化し、橋の建設コストの縮減が前提の上で、耐久性・施工品質の確保・維持管理の容易さと環境との調和が必要とされています。このような変化に対応して、道路橋示方書も平成 14 年 3 月に内容が大きく改訂されました。

こうした背景を踏まえて、本書は初版の「鋼橋へのアプローチ」に最新技術情報と実績を取り込み、かつ橋梁に携われる方々に鋼橋のイメージが浮かぶように、全体の流れとビジュアルな構成に配慮して再編集いたしました。

2. 主な改訂内容

主な改訂内容は、以下の通りです。

「**鋼橋の誕生と発展**」では、**わが国の鋼橋にスポットを当てた編集**とし、時系列的にその時期の特色を述べることで、鋼橋の歴史をわかりやすくしました。

「**橋の分類と形式**」の章を「**橋の分類**」と「**橋のしくみ**」の章に分割しました。

「**橋の分類**」では形式に重点を置き、実績の多い**少数桁橋、開断面箱桁橋、細幅箱桁橋**などの合理化橋梁を取り入れました。また、橋梁形式と支間長の関係も最新のものとしました。

「**橋のしくみ**」では、**一般名称、床版、主構造、付属物、下部構造**の構成で説明し、橋全体をとらえる上でわかりやすくしました。

「**鋼橋のできるまで**」では、橋の設計は詳細な説明を省き、その流れを説明するに止め、**耐震、疲労、防食、景観、耐風設計**など、特色のある設計の種類を追加しました。また、**架設工法はその選定と種類**に重点を置いた編集としました。

「**鋼橋の特徴**」では、各項目の実施例としてできるだけ**最新の施工例**を使用し、刷新を図りました。

「**これからの橋梁**」では、**ニッケル系高耐候性鋼材、亜鉛・アルミニウム溶射**などの、**長寿命化への新技術、LCC、アセットマネジメントの管理手法**などを取り入れ、**新しい合理化構造の採用例や、新しい合理化構造の研究**についても紹介しています。

その他

詳細な説明を省き、図・写真を多く使用することで、これから鋼橋に携わる方にも十分ご理解いただけるような編集としています。

表紙・写真を初め、図・表にもカラー印刷を取り入れ、親しみやすい構成としました。

【講習会・テキスト対応ワーキンググループ】